

第121回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2019年10月14日(月) 14時～17時

兼題「良夜」

- 川井素山 ○新蕎麦や暮るる墨田の船明かり  
雲井われ空に彩ある良夜かな  
箸先に踊る子芋の立飲屋  
早下校声高らかに鷓日和
- 保井寶正 ○お台場の砂場に立てば秋の声  
白驟雨人恋しくも酒を酌む  
音楽師小合唱の秋の蟬  
ゆあみ  
浴して酒酌みかわす良夜かな
- 佐久間喬 ○みどり児の泣き足り眠る良夜かな  
新蕎麦の音立てすする峠かな  
初冠雪夜目に輝く八ヶ岳  
身に入むや波濤のしぶき風の音
- 丸山酔宵子 ○紅葉濃し山へと続く登窯  
ラジコ聴きロック片手の良夜かな  
良夜なりサッチモ流れてマッカラム  
裏木戸の戸が開ひており良夜かな
- 吉田啓悟 ○舟底に川の音聞く良夜かな  
術後五年腹の底から秋の声  
いちじくを割ればエロスの花盛り  
近づくにつれて案山子は目をそらす
- 青木英林 ○秋の暮古戦場にはひとけ人氣なし  
吊し柿里の風情に色を添へ  
皆揃ひ金婚式の良夜かな  
新蕎麦の香り愛でつつ杯進む
- 山本草風 ○良夜かな鼠が走る田舎宿  
折る指の力に老いを知る  
風通る木陰に憩ふ解夏の僧  
祭太鼓時を迂りて故郷へ

佐久間たか子○青き空一途に昇る鳶もみじ  
それぞれに無言を愛でる良夜かな  
バス待ちて風となってるコスモスや  
筆跡のあらを隠して良夜かな

渡辺鯨波 ○あちこちに付箋をつける良夜かな  
平成がはみ出している秋遍路  
文学と音楽が好き体育の日  
級長に立候補した日鳥帰る

後藤克彦 ○ほろ酔いの足元照らす良夜かな  
鰯雲パズルのように形変へ  
捨案山子役目を終えてゴロ寝かな  
新蕎麦や貼紙の新目立ちおり

永井正孝 ○木の影が主役を演ず良夜かな  
薄野に番舞せり帽子二こ  
坂道の這いずりまはるこぼれ萩  
曼殊沙華コンクリ壁のすそ飾り

原 晶如 ○チエロ抱いて階段上る秋出水  
本好きに本贈られる良夜かな  
内浦に漁火残る無月かな  
うそ寒や風紋淡き影伸ばす

金森純女 ○小雀や野分に乗りて流れけり  
衣被にゆるにゆるぼんと脱皮せり  
秋茄子や身ぐるみはがれ声もなく  
何事もなき日に見つる良夜かな

## 次回「萩句会」

日時 2019年11月11日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第一会議室

兼題 『末枯（うらがれ）』 一句  
当季雑詠 三句